

中学生と郷土芸能の夏

—全国中学校総合文化祭の舞台に注目して—

坂本 麻実子¹

Junior High School Students and Local Performing Art in Summer

—An Remarkable Stage of National Art Festival of Junior High Schools—

Mamiko SAKAMOTO

E-mail : msakamot@edu.u-toyama.ac.jp

キーワード：郷土芸能，全国中学校総合文化祭，中学生，音楽科教育，文化祭

Keywords : Local Performing Art, National Art Festival of Junior High Schools, Junior High School Students, Music Education, School Festival

1. 音楽科教育と郷土芸能

郷土芸能は小・中学校，高等学校における音楽科教育の学習課題の一つであり，現行（平成28年度版）の音楽科教科書にも日本各地の郷土芸能が紹介されている。中学校の場合（表1），教育芸術社（以下，教芸と略す）「中学生の音楽1」は鑑賞教材として「日本の民謡」を扱って都道府県ごとに1～2曲を紹介し，そのうち南部牛追い唄，江戸の鳶木遣，郡上節，金毘羅船々，^{たんちやめ}谷茶前には鑑賞のポイントを付記している。ソーラン節は歌唱教材としても取り上げている。教芸「中学生の音楽2・3上」では鑑賞教材として「日本の郷土芸能」を扱って都道府県ごとに1種目ずつ紹介し⁽¹⁾，そのうち大日堂舞楽，チャッキラコ，祇園祭，阿波おどり，高千穂夜神楽には鑑賞のポイントを付記している。インターネットを活用した郷土芸能の学習も提唱している。教育出版（以下，教出と略す）「中学音楽1 音楽のおくりもの」は鑑賞教材として「日本の民謡と郷土芸能」を扱うが，紹介する民謡と郷土芸能は教芸に比べて少ない。教出「中学音楽2・3上 音楽のおくりもの」はインターネットを活用した民謡・郷土芸能の学習を提唱するとともに，「中学音楽1」で紹介したこきりこ節を歌唱教材として取り上げている。また

「郷土の伝統ある音楽文化にふれる喜び」と題し，地元につながるえんぶりや虎舞を稽古する中学生，早池峰神楽を舞う中学生，常磐津節や葛西ばやしの鑑賞教室に参加する中学生を紹介している。教出「中学音楽2・3下」は「中学音楽1」で紹介したねんねこころろこ（子守歌）と谷茶前を歌唱教材として取り上げている。

ところで，郷土芸能を演じる中学生は全国各地に見出すことができる。しかし，中学生が郷土芸能を演じる場は主に学校の文化祭や学習発表会，地域の祭りやイベントである。また中学生の郷土芸能には合唱や吹奏楽のような全国コンクールがないので，中学生が学内外で郷土芸能を熱演していても，それを全国にアピールするまでには至らないことが多いのではないかと筆者は「文化部のインターハイ」と呼ばれる全国高等学校総合文化祭（以下「総文」と略す。全国高等学校文化連盟と開催地の高等学校文化連盟主催）の郷土芸能部門がコンクール形式で行われ，全国的な発信力と大きな集客力があることに関心をもち，総文は全国の高等学校の郷土芸能部員たちの一大目標になっていることを明らかにした（坂本2018）。総文をシニア大会とするなら，全国中学校総合文化祭（以下「中文」と略す。全国中学校文化連盟と開催地の中学校文化連盟主催）はジュニア大会であり，郷土芸能を演じる中学生にとって中文は全国規模の発表会である。残念ながら中文は

¹ 富山大学人間発達科学部

表 1. 中学校音楽科教科書（平成 28 年版）に掲載された日本の民謡・郷土芸能

都道府県	教育芸術社「中学生の音楽 1」日本の民謡	教育芸術社「中学生の音楽 2・3 上」日本の郷土芸能	教育出版「中学音楽 1 音楽のおくりもの」日本の民謡・郷土芸能
北海道	ソーラン節, 江差追分	○アイヌ古式舞踊	江差追分
青森	津軽じょんがら節	青森ねぶた祭 (国)	津軽じょんがら節
岩手	南部牛追い歌	○早池峰神楽	南部木挽き歌, ○早池峰神楽
秋田	秋田おぼこ	○大日堂舞楽	秋田おぼこ, ねんねこころろこ (子守歌)
山形	花笠音頭	黒川能 (国)	掲載なし
宮城	斎太郎節	○秋保の田植踊	斎太郎節
福島	会津磐梯山	桧枝岐歌舞伎 ※舞台は国の有形民俗文化財	会津磐梯山
茨城	磯節	○日立風流物	磯節
栃木	日光和楽踊り	○山あげ祭	八木節
群馬	草津節	安中中宿の燈籠人形 (国)	八木節
埼玉	秩父音頭	○秩父夜祭	○秩父夜祭
千葉	大漁節	○佐原の大祭	掲載なし
東京	江戸の木遣歌	神田祭	三社祭
神奈川	箱根馬子歌	○チャッキラコ	掲載なし
山梨	縁故節	天津司の舞 (国)	掲載なし
新潟	佐渡おけさ	佐渡の人形芝居 (国)	佐渡おけさ, 酒づくり歌
長野	小諸馬子歌	御柱祭 (国)	小諸馬子歌
富山	こきりこ	越中八尾おわら風の盆	こきりこ節
石川	山中節	尾口のでくまわし (国)	長持歌
福井	三国節	越前万歳 (国)	掲載なし
静岡	ちゃつきり節	西浦の田楽 (国)	掲載なし
愛知	岡崎五万石	○尾張津島天王祭	花祭 (国)
岐阜	郡上節 ※郡上踊 (国)	○高山祭	郡上八幡の盆踊り歌 ※郡上踊 (国)
三重	伊勢音頭	御頭神事 (国)	掲載なし
滋賀	江州音頭	○長浜曳山まつり	掲載なし
京都	福知山音頭	○祇園祭	掲載なし
大阪	河内音頭	天神祭	天神祭
奈良	吉野川筏歌	○題目立	掲載なし
和歌山	串本節	○那智の田楽	掲載なし
兵庫	デカンショ節	淡路人形浄瑠璃 (国)	掲載なし
鳥取	貝殻節	因幡の傘踊り	掲載なし
島根	安来節	○佐陀神能	安来節
岡山	下津井節	備中神楽 (国)	掲載なし
広島	音戸の舟歌	○壬生の花田植	○壬生の花田植
山口	男なら	岩国行波の神舞 (国)	掲載なし
香川	金比羅船々	綾子踊 (国)	こんぴら船々
徳島	祖谷の粉ひき歌	阿波おどり	阿波おどり
愛媛	宇和島さんさ	伊予神楽 (国)	伊予節
高知	よさこい節	よさこい祭り	ヨサコイ節
福岡	黒田節	○博多祇園山笠	○博多祇園山笠
佐賀	岳の新太郎さん	○唐津くんち	掲載なし
長崎	長崎ぶらぶら節	長崎くんち (国)	長崎くんち (国)
熊本	五木の子守歌	○八代妙見祭	五木の子もり歌
大分	津留崎踊	修正鬼会 (国)	掲載なし
宮崎	刈り干し切り歌	高千穂夜神楽 (国)	掲載なし
鹿児島	鹿児島おほら節	諸鈍シバヤ	朝花節
沖縄	谷茶前	エイサー	谷茶前, 月ぬ美しゃ

備考：民謡・郷土芸能の表記は掲載教科書に従う。ユネスコの無形文化遺産に登録されたものは○印、国指定の重要無形文化財は(国)で示す。

歴史が浅く出場校も少ないので知名度の点では総文に劣る。また従来の音楽関係のコンクールや発表会の研究も主たる対象は合唱や吹奏楽や軽音楽であり(宮入 2015)、中文の郷土芸能発表は十分に知られていない。そこで筆者は令和元年(2019)8月22、23両日に富山市で開催された第19回全国中学校総合文化祭富山大会における郷土芸能の発表に注目し、中文を通して音楽科教科書とは別の視点から中学生の郷土芸能活動を考察してみたい。

2. 全国中学校総合文化祭富山大会の郷土芸能発表

富山大会の会場(富山県民会館)で配布された大会記録集(全国中学校文化連盟、富山県中学校文化連盟 2019)によれば、中文を主催する全国中学校文化連盟は平成12年(2000)にまずは東京都中学校文化連盟が中心になって設立され、将来的には全国組織に発展させることを目指した。翌13年(2001)に中文の第1回東京大会(当時の名称は「全国中学校文化連盟・総合文化発表会」)が開催され、展示発表(書写書道、絵画、郷土研究)と舞台発表(合唱、吹奏楽、郷土芸能)が行われた。令和元年の時点で全国中学校文化連盟に加盟しているのは1都(東京)、16県(青森、岩手、山形、栃木、埼玉、千葉、富山、静岡、鳥取、岡山、山口、徳島、福岡、長崎、大分、沖縄)、4市(札幌、金沢、大阪、広島)の中学校文化連盟、1団体(神奈川県私立中学校文化連盟)であり、中文は全国組織としては未だしの感がある(表2)。郷土芸能は中文の「舞台発表」の一部門であり、富山大会でも郷土芸能は合唱、合奏、吹奏楽、マー

表2. 令和元年度(2019)
全国中学校文化連盟加盟団体

地域	ブロック	都県市、私立の中学校文化連盟
東	北海道	札幌市
	東北	青森、岩手、山形
	関東	栃木、埼玉、千葉、東京、神奈川県私立
中	北信越	富山、金沢市
	東海	静岡
	近畿	大阪市
西	中国	鳥取、岡山、広島市、山口
	四国	徳島
	九州	福岡、長崎、大分、沖縄

チング、バトントワリング、意見発表、朗読、テレビ番組、ラジオ番組に交って発表を行った。

富山大会で郷土芸能を発表した中学校は出演順に石垣市立石垣(沖縄県)、伊江村立伊江(沖縄県)、周南市立和田(山口県)、遠野市立遠野東(岩手県)の県外4校、魚津市立東部(富山県)、南砺市立平(富山県)の県内2校、合計6校である。富山県は第1回東京大会から参加しているが、郷土芸能では前回2018年の長崎大会に富山市立八尾が初めて富山県から参加し、今年の富山大会では八尾はオープニングセレモニーに出演した。

中文に出場する中学生は郷土芸能部員とは限らない。富山大会では八尾は郷土芸能部員(部員数の記録なし)が越中おわら節、石垣は郷土芸能部員27名が八重山の豊年祭、伊江は学外の舞踊道場仲間4名で琉球舞踊「ゼイ」、和田は全校生徒17名で国の重要無形文化財に指定されている三作神楽、遠野東は2、3年生105名で青笹しし踊りと『遠野物語』に基づく昔話と遠野市民歌、魚津市立東部は2、3年生有志15名でせりこみ蝶六とそれを現代風にアレンジしたCHOUROKUダンス、平は全校生徒40名で越中五箇山民謡(こきりこ、といちんさ、麦屋節)を発表した。

中文富山大会はメディアにも取り上げられた。開催地の富山県ではもちろんだが⁽²⁾、県外からの出場校の地元でも報道された⁽³⁾。中学生たちは中文へ出発する前から練習⁽⁴⁾や市長訪問⁽⁵⁾で報道され、帰校後も地元テレビ⁽⁶⁾やラジオ⁽⁷⁾の取材を受けていた。中文は中学生たちに郷土芸能を演じる自信と誇りを与え、彼らをひと回り成長させる機会となったであろう。

3. 全国中学校総合文化祭における郷土芸能の発表状況

中文の郷土芸能発表は2001年の東京大会から2019年の富山大会まで途切れたことはなく、出場校とその演目を都府県別にまとめてみた(表3)。発表実績があるのは、東北ブロックの青森と岩手、関東ブロックの栃木と東京と神奈川、北信越ブロックの富山、近畿ブロックの大阪と兵庫、中国ブロックの鳥取と山口、四国ブロックの徳島、九州ブロックの福岡と長崎と大分と沖縄である。この中で沖縄県は第1回から第19回まで欠かさず発表校を派遣し、

表 3. 全国中学校総合文化祭における郷土芸能の発表校（2001～2019）

地域	ブロック	都道府県	発表校・発表年・演目	
東	北海道	北海道	なし	
	東北	青森	弘前市立弘前第二 2002 津軽三味線, 2008 和太鼓 蟹田町立蟹田 2003 風太鼓 五所川原市立金木 2006 津軽三味線 藤崎町立藤崎 2008 安東太鼓 南部町立名川 2008 えんぶり 深浦町立深浦 2008 北前太鼓 平川市立碓ヶ関 2008 久吉駒踊り 田子町立田子 2008 田子神楽 今別町立今別 2008 荒馬 弘前市立第四 2008 津軽じょんがら節 弘前市立津軽 2009 登山囃子 弘前市立船沢 2011 ねぶた囃し 弘前大学教育学部附属 2014 津軽三味線	
		岩手	譜代村立譜代 2002 中野流鶺鴒七頭舞 盛岡市立乙部 2003 黒川田植え踊り, 2011 盛岡さんさ 岩泉町立小本 2004, 2014 中野七頭舞 北上市立北上北 2006 二子鬼剣舞 遠野市立土淵 2007 山口さんさ踊り 大槌町立吉里吉里 2008 鹿子踊り 奥州市立江刺第一 2009 太鼓 盛岡市立繫 2010 繫さんさ太鼓 紫波町立紫波第二 2011, 2015 左比内金山太鼓 北上市立和賀 2011 岩崎鬼剣舞 陸前高田市気仙 2011, 2012 けんか七夕太鼓 大船渡市立大船渡 2011 仰山流笹崎鹿踊り 宮古市立重茂 2013 トド崎太鼓 滝沢市立一本木 2017 一本木さんさ 遠野市立遠野東 2019 永遠のふるさと遠野～青笹しし踊り～	
	関東	栃木	栃木推薦 2002, 2003 ブラジル太鼓 那須烏山市烏山 2012 お囃子「矢車」他 佐野市立常盤 2012 牧歌舞伎「白浪五人男」	
		東京	八王子市立由井 2007 八王子車人形「三人三番叟」	
		神奈川	川崎市立御幸 2009 YOSAKO ソーラン御幸青龍 横浜山手中華学校 2017 中国獅子舞	
	中	北信越	富山	富山市立八尾 2018 越中八尾おわら風の盆 魚津市立東部 2019 せりこみ蝶六 南砺市立平 2019 こきりこ, といちんさ, 麦屋節
		東海 近畿	なし	なし
			大阪	大阪市立放出 2004 大阪山車囃子 南淡路市立三原 2009 人形浄瑠璃「伊達娘恋緋鹿子」
	西	中国	鳥取	鳥取市立国府 2013 因幡の傘踊り, 安来節
山口			周南市立和田 2013, 2019 三作神楽 山口市立大殿 2014 鷺流狂言 岩国市立錦 2015 向峠こども神楽「大蛇」 長門市立俵山 2015 義太夫寿式三番叟 岩国市立平田 2016 平田囃子田 下関市立文洋 2018 平家太鼓	
四国		徳島	阿波市立吉野 2016 案内神社の獅子舞 阿南市立新野 2018 人形浄瑠璃「傾城阿波鳴門～巡礼歌の段～」	
九州		福岡	添田町立添田 2005 津野神楽「御福」	
		長崎	長崎市立小島 2010 小島響道太鼓 五島市立三井楽 2013 獅子舞 雲仙市立千々石 2014 彌神楽	

			五島市立崎山 2017, 2018 チャンココ
	大分		玖珠町立日出生 2016 日出生大自然太鼓 豊後高田市清川 2016 御嶽の響 激流太鼓
	沖縄		沖縄推薦 2001 琉球舞踊「四つ竹」、2003 琉球舞踊「初春」他 豊見城市立伊良波 2002 琉球舞踊「鳩間節」他 伊江村立伊江 2004 シティナ節、2019 琉球舞踊「ゼイ」 渡嘉敷村立渡嘉敷 2004, 2007 風神太鼓 うるま市立石川 2005 蝶ぼたん 那覇市立松島、金城、浦添市立浦添、浦西 2006 琉球舞踊「四つ竹」、獅子舞 石垣市立石垣 2008 豊漁の願い、2011, 2014, 2015 美ら島の恵み、2018 豊漁の喜び、2019 五穀の恵み～祈り～ 石垣市立川平 2009, 2016 川平満慶太鼓 うるま市立高江洲 2010 涙の那覇港 武富町立黒島 2011 黄金の黒島 島尻地区選抜 2012 琉球舞踊「四つ竹」 中頭地区選抜 2013 「祝いの踊り」、2014 琉球舞踊「四つ竹」 那覇市立仲井真 2013 ていんさぐぬ花、安里屋ユンタ 沖縄県 47 中学合同 2014 安波節他 島尻地区 9 中学合同 2014 かぎやで風 県立美咲特別支援学校 2014 エイサー 宮古島市立久松 2014 獅子舞 八重瀬町立東風平 2014 東風平の棒 浦添市立仲西 2014 琉球舞踊「かりゆし」 那覇市立那覇、金城、松島 2014 総掛 今帰仁村立今帰仁 2014 七福神 那覇市立那覇、金城、沖縄尚学附属 2015 総掛 読谷村立読谷、古堅 2016 若衆彩々～未来の幸先を寿ぐ～、2018 琉球舞踊「かぎやで風」 うるま市立伊波 2017 手水の縁 那覇市立松島、神原、浦添市立神森 2017 しゅんどう

備考：演目の表記は大会記録集に従う。全国中学校総合文化祭の開催年と開催地は次の通り。2001, 2002, 2003 東京大会, 2004 沖縄大会, 2005 神奈川大会, 2006, 2007 東京大会, 2008 青森大会, 2009 神奈川大会, 2010 福岡大会, 2011 岩手大会, 2012 栃木大会, 2013 山口大会, 2014 沖縄大会, 2015 東京大会, 2016 大分大会, 2017 神奈川大会, 2018 長崎大会, 2019 富山大会。

富山大会で発表した石垣は最多の 6 回出場である (2008, 2011, 2014, 2015, 2018, 2019)。沖縄県に次ぐのは発表校を 15 回派遣した岩手県である。富山大会で発表した遠野東は 2013 年に土淵、青笹、上郷の 3 校が統合して開校したが、土淵は 2007 年の東京大会で発表していた。その他、富山大会出場校では伊江は 15 年ぶり 2 回目 (2004, 2019)、和田は 6 年ぶり 2 回目 (2013, 2019) であり、魚津東と平は初出場である。

なお全国中学校文化連盟に加盟する都県市の中学校文化連盟はそれぞれの地元で中学校文化祭を行っており⁽⁸⁾、これが翌年の中文出場の予選会を兼ねる。また中文開催地の中学校文化連盟は中文に合わせて地元の中学校文化祭を行っている⁽⁹⁾。そのため中文開催地では地元の中学校が各部門に多数参加する。郷土芸能でも 2014 年の沖縄大会には県内 9 校 (合

同参加も含む)、2008 年の青森大会には県内 8 校、2011 年の岩手大会に県内 6 校が参加した例がある。

出場校の演目を見ると、音楽科教科書にも掲載されている郷土芸能を演じる中学校がある。弘前市立第四は教芸・教出掲載の津軽じょんがら節を演奏した (2008)。五所川原市立金木 (2006)、弘前市立第二 (2008)、弘前大学教育学部附属 (2014) も曲目は不明だが津軽三味線を演奏した。南淡路市立三原は教芸掲載の淡路人形浄瑠璃「伊達娘恋緋鹿子」を演じた (2009)。那須烏山市立烏山は教芸掲載の山あげ祭のお囃子を演奏した (2012)。鳥取市立国府は教芸掲載の因幡の傘踊りと教芸・教出掲載の安来節を演じた (2013)。沖縄県立美咲特別支援学校は教芸掲載のエイサーを演じた (2014)。富山市立八尾は教芸掲載のおわら風の盆を演じ、南砺市立平は教芸・教出掲載のこきりこを演じた (2018)。しかし、中文で

郷土芸能を演じる中学校は、地元では誰もが知るが音楽科教科書からはうかがい知ることができない演目を披露する方が圧倒的に多い。そのような演目の一端をあげると、神楽（添田町立添田の津野神楽 2005、田子町立田子の田子神楽 2008、岩国市錦の向峠こども神楽 2015）、田楽（五島市三井楽の獅子舞 2013、盛岡市立乙部の黒川田植え踊り 2003、岩国市立平田の平田囃子田 2016）、祭囃子（大阪市立放出の大阪山車囃子 2004、弘前市立船沢のねふた囃子 2008、弘前市津軽の登山囃子 2009）、獅子舞（阿波市立吉野の案内神社の獅子舞 2016、横浜山手中華学校の中国獅子舞 2017）、念仏踊り（北上市立北上北の二子鬼剣舞 2006、和賀の岩崎鬼剣舞 2011、五島市崎山のチャンココ 2017、2018）、盆踊り（盛岡市立乙部の盛岡さんさ 2011、滝沢市立一本木の一本木さんさ 2017）、琉球舞踊（沖縄選抜 2001、2003 ほか多数）、和太鼓（大船渡市立大船渡のけんか七夕太鼓 2011、2012 ほか多数）、歌舞伎（佐野市立常盤の牧歌舞伎 2012）、狂言（山口市立大殿の鷺流狂言 2014）、人形芝居（八王子市立由井の八王子車人形 2007、阿南市立新野の阿波人形浄瑠璃 2018）と多種多様である。中文で郷土芸能の発表実績があるのは 15 都府県で全都道府県の三分の一に満たないが、それでも中学生は日本の民俗芸能の豊饒な世界を自分たちも担っていることを中文で再認識するだろう。

4. 大舞台の経験

郷土芸能は日頃の練習も大事ではあるが、大舞台を経験することが上達につながる。中文出場校はその点を承知しており、全学体制で中文の大舞台に臨んだ岩泉町立小本と周南市立和田の 2 校の事例を見てみよう。

①岩泉町立小本中学校の中野七頭舞発表

小本中は平成 26 年度（2014）第 14 回沖縄大会に全校生徒 45 名（1 年 14 名、2 年 13 名、3 年 18 名）で出場し、中野七頭舞^{なかのななづまい}を演じた。中野七頭舞は当地で天保の飢饉の苦しい時代に始まった神楽舞である。小本中の平成 26 年度活動記録⁽¹⁰⁾（中野七頭舞 2017）によれば、小本中は平成 23 年（2011）3 月 11 日の東日本大震災で津波被害にあい、仮設校舎で学校生活を送っていた。文化祭で演じてきた中野七頭舞の衣装や道具も津波で流されたが、平成 23 年の文化祭では全校演劇に取り入れる形で生徒全員が制服で

中野七頭舞を演じた。翌 24 年の文化祭では中野七頭舞の発表を復活させ、このときの 1 年生が 2 年生のときに岩手県中学校文化祭の予選会を通過し、3 年生になって下級生たちと沖縄大会に臨んだ。

小本中では沖縄大会での中野七頭舞発表を復興教育と位置づけ、全校生徒で役割を分担した。そのため、以前からの「舞」、「お囃子」、「語り」（小本中と中野七頭舞を紹介する原稿の作成と発表）に加え、新たに「道具」（道具や衣装の点検、管理、搬送）、「映像操作」（パソコン、プロジェクター操作）、「記録」の役割を決め、舞 9 名、お囃子 9 名、語り 6 名、道具 3 名、映像操作 3 名、記録 3 名で分担した。練習には水曜日 6 校時（9 月より）と総合的な学習の 14 時間を充て、さらに部活終了後に課外活動として体育館や公民館で中野七頭舞保存会の指導を受けた。そして学校行事として 6 月 19 日の小本中の新校舎起工式、10 月 12 日の国民文化祭（秋田県田沢湖芸術村）、10 月 26 日の小本中文化祭、11 月 12 日の岩手県中学校文化祭（岩手県民会館）で発表し、その上で 12 月 13 日の沖縄大会（浦添市てだこホール）の舞台を踏んだ。以上、5 回の舞台発表を通じて「新入生は、先輩や保存会のみなさんから受け継ごうという気持ちを持ち、2・3 年生は誇りをもって中野七頭舞を後輩に伝えようとする姿勢が身につけてきた」（中野七頭舞 2017：4）といい、小本中は「発表を重ねるごとに誇りと自信が増していく 1 年間であった」（同前：6）と総括している。

②周南市立和田中学校の三作神楽発表

和田中は前述のとおり富山大会に全校生徒 17 名（1 年 2 名、2 年 5 名、3 年 10 名）で出場し、三作神楽を演じた。三作神楽は周南市の山間部の和田地区にある河内社において 7 年ごと（卯年と酉年）の式年祭に奉納される神楽舞である。和田中では平成 25 年から和田小と連携して三作神楽の継承活動を始めた。和田小・中では三作神楽保存会の指導を受けながら月 1 回のペースで合同練習を行って 10 月の合同文化祭で発表し、さらに小学生は 10 月の周南市音楽祭、中学生は 11 月の同市音楽祭で発表するのが基本スケジュールである。平成 29 年度の活動報告⁽¹¹⁾（周南市立和田小学校・和田中学校 2017）によると、和田小 3～6 年生 16 名（当初は 5、6 年生のみであったが児童数減少により参加学年を引き下げた）、和田中 23 名全員が三作神楽に取り組んだ。6 月の初回時に小・中学生たちは役割（舞、太鼓、

合わせ鉦、篠笛)を決めて練習を始める。舞の演目は小学生には「清めの舞」、中学生には富山大会でも披露した「弓の舞」が決まりである。楽器は中学生が小学生に教えることもある。また和田小では舞手が舞の中で唱える歌詞(うたぐら)を素読で児童に覚えさせている。そして10月28日の小中合同文化祭、10月31日の周南市小学校音楽祭、11月7日の同市中学校音楽祭で三作神楽を発表した。市の音楽祭について和田小・中は「合唱が多い中での神楽の披露は好評」(周南市立和田小学校・和田中学校2017:2)で周南市の小中学生に三作神楽を知ってもらう良い機会だという。その他、平成30年2月5日には「やまぐち小中一貫教育実践発表会 in 周南」のアトラクションに出演し、舞は小中別々に、楽器は小中一緒に三作神楽を演じた。当日は約150名の参加者があり、和田小・中は「多くの方の前で披露することが少人数の学校で過ごしている子どもたちにとって良い機会となった」(周南市立和田小学校・和田中学校2017:2)という。なお平成29年には三作神楽にとって最も重要な式年祭があり、11月11、12日の神楽奉納には希望者のみ舞と篠笛で参加した。

したがって富山大会に出場した中学生は小学生のときから三作神楽に取り組んでおり、平成29年の式年祭における奉納神楽の経験者もいると見られる。和田中は周南市の中心部から離れた小規模校なので、県や市が主催する発表会は児童・生徒に舞台経験を積ませ、三作神楽をアピールする場と考えており、それが中文では全国レベルになる。令和元年の中文出場にあたり、和田中の練習は月1回から週1回になった⁽¹²⁾。8月18日に壮行会で地域の人々約60名の前で「弓の舞」を披露し⁽¹³⁾、21日にバスで約10時間かけて富山にやってきた。翌日に本番を終えた中学生たちは感想を短歌に作っており、その中には「やり終えて ほっとするのが 一区切 大きな拍手も忘れられない」(2年男子)、「大舞台 不安と緊張 交じり合う いざ始まると いつもの調子」(3年女子)という歌もあった。いつになく大勢の観客を前に、緊張や不安を力に代えて20分間、神楽を演じきった中学生たちの達成感がうかがえる。

5. 郷土芸能の継承からみた中学校総合文化祭の役割

郷土芸能の継承には若手の育成が重要である。中文出場校では保存会や地域の人々の支援を得て郷土芸能に取り組み、小・中学校が連携して練習もしていた。それでも全国的な児童・生徒数の減少、そして小・中学校の再編・統合は郷土芸能活動にさまざまな形で影響する。最近の中文出場校をみても、例えば2014年の沖縄大会に出場した雲仙市立千々石(長崎県)は彌神楽を吹奏楽部員が演じた。同校の吹奏楽部員は部活の練習の傍ら学校に隣接する橘神社の彌神楽を継承し、雲仙市の観光PR大使もつとめているという⁽¹⁵⁾。2015年の東京大会に出場した長門市立俵山(山口県)は2005年から子ども歌舞伎に取り組み、中文でも「義太夫 寿式三番叟」を演じたが、実は深川中学校との統合により年度末での閉校が決まっていた⁽¹⁶⁾。郷土芸能の継承とは常に休止や廃絶の危機と隣り合わせの活動なのである。

近年、日本の郷土芸能では2016年に「山・鉦・屋台行事」として、2018年に「来訪神・仮面・仮装の神々」として複数の郷土芸能がユネスコの無形文化遺産に一括登録された。世界的な評価を受けて注目される郷土芸能がある一方で、人知れず姿を消した郷土芸能も少なくない。今後ますます若い世代に向けて郷土芸能の啓発と継承を働きかけるために知恵を絞らねばなくなるだろう。中文の郷土芸能発表でも明らかなように日本の郷土芸能の裾野は広く、全国には幼少時から郷土芸能に慣れ親しみ、舞や楽器に優れた技量をもっている中学生たちがいる。中学生は郷土芸能を演じるだけでなく継承することにも自覚が生まれる年頃であろうが、部活と郷土芸能活動の両立となると現代の中学生には悩ましい問題である。中学生の郷土芸能の継承には課題が多いが、少なくとも中文は郷土芸能に取り組む中学生たちの希望となる舞台であり続けるべきだろう。

注.

- (1) 筆者の見るところでは、ユネスコの無形文化遺産に登録されたもの、国指定の重要無形文化財が多く含まれていたため表1に加筆した。
- (2) 北日本新聞2019年8月23日記事「笑顔の花、富山から全国に 全国中文祭富山大会開幕」。同新聞8月24日記事「人つなぐ文化の力確認 全国中文祭富山大会閉幕」。同新聞9月22日記事「第19回全国中学校総合文化祭富山大会 未来につながる 文化の力」は富山県中学校文化連盟と北日

本新聞が協力して作成し、各部門の様子や参加した生徒の感想を掲載している。

- (3) 岩手日報 2019年8月23日記事「躍動青笹しし踊り 遠野東中、全国中総文祭で披露」
www.iwate-np.co.jp (2019年9月20日閲覧)、
沖縄タイムス 2019年8月23日記事「躍動 沖縄の文化 第19全国中学校総合文化祭」
<https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/465589> (2019年9月20日閲覧)
- (4) 八重山毎日新聞 2019年8月21日記事「石垣中学校郷土芸能部 全国中学総文祭に気合」
www.y-mainichi.co.jp/news/35659 (2019年10月2日閲覧)
- (5) 山口新聞 2019年7月17日記事「周南の和田中全国生徒、来月全国総合文化祭へ」
<https://www.minato-yamaguchi.co.jp/yama/news/digest/2019/0717/5p.html> (2019年10月2日閲覧)
- (6) 遠野テレビ 2019年9月4日「遠野東中学校全国中学校総合文化祭出場を報告」
www.tonotv.com/html/catv/daily/2019/09/02/2.html (2019年9月20日閲覧)
- (7) しゅうなんFM 2019年9月7日「ラジオくらぶ」に和田中学校生徒会メンバー4人出演。
g-fms784.jugem.jp/?day=20190907 (2019年9月20日閲覧)
- (8) 富山県中学校文化連盟の場合、平成30年(2018)8月に富山県中学校文化祭を行い(例年は秋に行われるが、翌年の富山大会の開催日に合わせて前倒しして行った)、翌年2月に魚津東部と平の富山大会出場を決定した。
- (9) したがって第19回中文富山大会と同日に第34回富山県中学校文化祭が行われた。
- (10) 中野七頭舞(いわて震災アーカイブ～希望～)
[Iwate-archivepref.iwate.jp>wpcontent>uploads>2017/02](http://Iwate-archivepref.iwate.jp/wpcontent/uploads/2017/02) (2019年9月20日閲覧)
- (11) 周南市立和田小学校・和田中学校「和田三作神楽継承活動」
[www.ykyoiku.or.jp>newsite>h2926tiikikasseika_houkoku](http://www.ykyoiku.or.jp/newsite/h2926tiikikasseika_houkoku) (2019年9月20日閲覧)
- (12) 周南市立和田中学校ホームページ
<http://www.shunan.ed.jp/wadachu/mitsukuri.html> (2019年9月20日閲覧)
- (13) 「若あゆ」(和田中だより)第5号(令和元年9

月2日発行)

www.shunan.ed.jp/wadachu/tayori.html (2019年10月14日閲覧)

- (14) 「若あゆ」(和田中だより)第6号(令和元年9月3日発行)、閲覧日は注(15)と同じ。
- (15) 雲仙市ホームページ「第2回3市合同島原半島伝承芸能まつり」出演団体プロフィールより(2016年11月26日掲載)。
<https://www.city.unzen.nagasaki.jp/file/press/785309.pdf> (2019年10月16日閲覧)
- (16) 長門市ホームページ「最後の子ども歌舞伎上演」(2015年11月8日掲載)
<https://www.city.nagato.yamaguchi.jp/wadaiack/wadai/n3485.html> (2019年10月16日閲覧)

参考文献

- 坂本麻実子(2018)「郷土芸能のハイスクール・デイズー全国高等学校総合文化祭の頂点を目指す郷土芸能部員たち」『富山大学人間発達科学部紀要』12-2, pp.15-25
- 全国中学校文化連盟、富山県中学校文化連盟(2019)『第19回全国中学校総合文化祭富山大会 第34回富山県中学校文化祭』(大会記録集、会場で配布)
- 宮入恭平編(2015)『発表会文化論 アマチュアの表現活動を問う』東京：青弓社

(2019年10月21日受付)

(2019年12月18日受理)